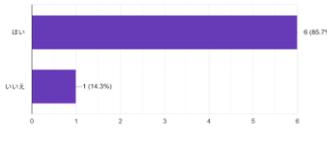
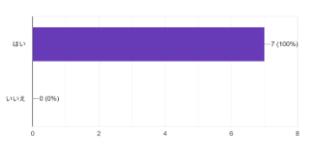
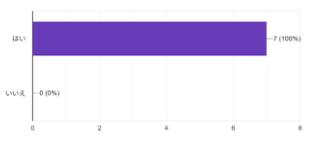
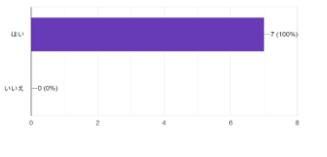
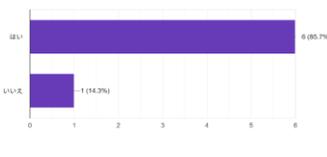
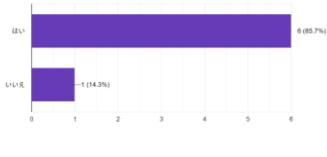
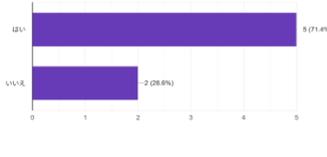
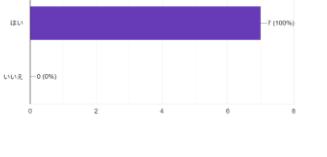


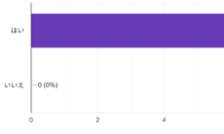
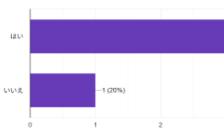
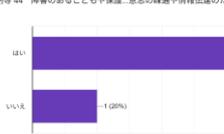
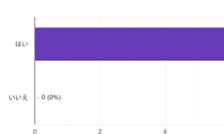
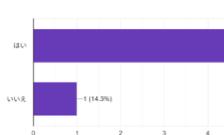
事業所名	児童発達支援センター にじいろキッズらいふ				公表日	令和8年3月28日	
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	環境・体制整備 1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 7件の回答	はい 7 (100%) いいえ 0 (0%)	支援室は十分な広さを確保しており、人数の増減にも柔軟に対応可能です。運動遊びと机上課題の部屋を分ける事も可能で、こどもの特性や活動に合わせてパーテーションを活用するなど、全体に目が行き届く環境づくりを工夫しています。	現状の広いスペースは有効ですが、日々のこどもの様子や活動内容に応じた細やかな環境設定が求められます。こどもたちがより集中して安全に活動できるよう、パーテーションの配置等を含めた継続的なレイアウトの見直しは課題です。	7	0
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	環境・体制整備 2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 7件の回答	はい 6 (85.7%) いいえ 1 (14.3%)	医療的ケアが必要なこどもが多い日には看護師等の人員を増やすなど、安心できる体制を整えています。排泄介助時にも職員同士で積極的に声を掛け合い、複数名での対応がスムーズに行える協力体制が機能しています。	基本的な配置基準は満たしているものの、個別対応を要するこどもが多い日は職員配置が手薄に感じる場面も見受けられます。日々のこどもの状態や医療的ケアの必要度に応じた、柔軟かつ機動的な人員配置の調整が今後の課題です。	6	1
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	環境・体制整備 3 生活空間は、こどもにわかりやすく、搬送等、環境上の配慮が適切になされているか。 7件の回答	はい 7 (100%) いいえ 0 (0%)	車椅子利用者のためのスロープ設置や、バギーでの移動・移乗がスムーズに行える広いおむつ交換室など、バリアフリー対応が充実しています。トイレもカーテンで仕切るなど、こどものプライバシー保護にも配慮しています。	設備面での整備は進んでいますが、視覚的支援を必要とするこどもに対する個別のアプローチに課題が残ります。今後は、こども一人ひとりが次に何をすべきか一目で分かるような、個別の視覚支援ツールの導入と提示が必要です。	7	0
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	環境・体制整備 4 生活空間は、清潔で、心地よく、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 7件の回答	はい 7 (100%) いいえ 0 (0%)	多様な設備を備え、こどもの個々のニーズに応じた支援が可能な空間となっています。使用後の部屋の清掃を徹底し、季節や状況に合わせて水モップを活用するなど、常に清潔で心地よく過ごせる環境の維持に努めています。	こどもたちがより主体的に活動に取り組めるよう、各スペースの役割をさらに明確にし、整理整頓の基準を統一することが課題です。	7	0
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	環境・体制整備 5 必要に応じて、こどもが個別に使用することが認められる環境になっているか。 7件の回答	はい 7 (100%) いいえ 0 (0%)	音や外部刺激に敏感なこどもがパニックになった際など、落ち着いて過ごせるように一人になれる専用の部屋を用意しています。常に職員の目が届く範囲で別室対応ができるよう、安全面にも配慮した環境を整えています。	クールダウンのための部屋は確保されていますが、その利用基準やタイミングについて職員間の共通認識を深める必要があります。こども自身が「落ち着きたい」と感じた時に自発的に利用できるような声掛けや、自己選択を促す支援の工夫が課題です。	7	0
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	業務改善 6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 7件の回答	はい 6 (85.7%) いいえ 1 (14.3%)	定期的なミーティングを開催し、業務改善に向けた話し合いの機会を設けています。計画の立案や進捗について意見を交わし、現状の支援内容や事業所の運営方針について振り返りを行う体制づくりを進めています。	臨時職員が振り返りや話し合いに参加しにくい状況があり、情報共有にはばつきが生じています。今後は、常勤・非常勤を問わず全スタッフが参加できる会議体系の構築や、情報共有ツールの活用による包括的な意見集約や振り返りの時間の確保の充実が課題です。	6	1
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	業務改善 7 保護者向け評価表により、保護者等に向けており、その内容を業務改善につなげているか。 6件の回答	はい 5 (83.3%) いいえ 1 (16.7%)	児童発達支援管理責任者との面談等を通じて、保護者の希望や意向を直接ヒアリングする機会を設けています。保護者からの生の声を事業所として受け止め、支援の方向性を確認するための土台づくりを行っています。	保護者からの意見を収集する仕組みはありますが、それが実際の業務改善にどう結びついているか、職員間での共有が不十分です。いただいた評価や意見を組織全体で分析し、具体的な改善策として日々の支援に反映させるプロセスの構築が必要です。	5	1
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	業務改善 8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 7件の回答	はい 7 (100%) いいえ 0 (0%)	定期的なアンケートや個別のヒアリングを実施し、職員が意見を言いやすい環境づくりに努めています。ミーティング等を通じて現場の課題や気づきを吸い上げ、事業所内の情報共有を積極的に行っています。	ミーティングの開催が不定期になりがちで、全職員が揃って意見交換をする機会が限られています。特に臨時職員の意見を漏らさず把握するためにも、定期的な会議の開催や、誰もが気軽に提案できるような仕組みづくりに努めます。	7	0

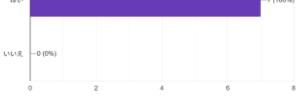
9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<p>業務改善 9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 7件の回答</p> 	6	1	<p>第三者による評価結果を真摯に受け止め、職員各自が個人的な課題として認識し、次のステップや目標設定に活かす意識を持っています。外部からの客観的な視点を、自身の支援スキルの見直しに役立てています。</p>	<p>外部評価の結果を全職員で共有・分析し、事業所としての具体的な改善計画を策定・実行していくことが今後の課題です。</p>
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<p>業務改善 10 職員の資質の向上を図るために、法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 7件の回答</p> 	7	0	<p>法人内での年2回の研修開催に加え、アセスメントに関する外部研修への参加など、職員が意欲的にスキルアップを目指せる環境です。</p>	<p>研修の種類は豊富ですが、今年度は実際の受講機会が少なかったと感じる職員もあり、参加状況に偏りが見られます。今後は、個々のスキルや経験に応じた計画的な研修の割り当てや、受講内容を事業所内で共有・還元する仕組みの徹底が課題です。</p>
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<p>適切な支援の提供 11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 7件の回答</p> 	7	0	<p>事業所として提供する支援プログラムを明確にし、適切に公表する体制を整えています。日々の活動の見直しを立て、子どもたちが安心して過ごせるよう、基本となるスケジュールに沿った運営に努めています。</p>	<p>全体的なプログラム、自由時間の過ごし方の過ごし方の工夫がひとりお一人違うため、今後さらに充実を図ります。</p>
12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<p>適切な支援の提供 12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 7件の回答</p> 	7	0	<p>計画作成前には必ず保護者と面談を行い、ニーズを丁寧に汲み取っています。また、活動中での様子を観察してアセスメントを実施し、個別の対応マニュアルを作成するなど、客観的かつ分かりやすい計画づくりを工夫しています。</p>	<p>アセスメントから計画作成への流れは構築されていますが、アセスメントの精度や深度に職員間で差がある可能性があります。今後は、アセスメントスキルの研修を行い、より多角的で精緻な課題分析を行うことが課題です。</p>
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<p>適切な支援の提供 13 放課後等デイサービス計画...の最善の利益を考慮した検討が行われているか。 7件の回答</p> 	6	1	<p>検討会議を開催し、こどもの最善の利益を第一に考えた話し合いを行っています。以前と比べて、日常の雑談の中でも支援に関する意見交換が自然に行われるようになり、個別マニュアルの評価や変更も随時実施しています。</p>	<p>利用頻度の少ないお子さんに関して、全職員での深い共通理解をもって支援に入る必要があります。機会が少ないうえに職員にもこどもの特性や計画の意図が確実に伝わるよう、情報共有の仕組みの強化が課題です。</p>
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<p>適切な支援の提供 14 放課後等デイサービス計画...共有され、計画に沿った支援が行われているか。 7件の回答</p> 	6	1	<p>毎日の活動プログラムを分かりやすくまとめる、職員に配布することで、日々の動きや支援の目的を明確にしています。計画に基づいた統一した支援が提供できるよう、事前の情報共有に努めています。</p>	<p>常勤職員間での共有は進んでいますが、勤務時間が異なる臨時職員の間で計画の意図や具体的な支援方法を共有する時間が不足しています。短時間でも要点を的確に伝えられるシステム構築が必要です。</p>
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<p>適切な支援の提供 15 こどもの適応行動の状況...アセスメントを使用する等により確認しているか。 7件の回答</p> 	5	2	<p>日々の活動場面における行動観察（インフォーマルアセスメント）を通じて、子どもたちが何に興味を持ち、どのような支援が必要かを把握するよう努めており、現場での気づきを大切にしています。</p>	<p>経験の浅い職員はこどもの全体像の把握に苦慮しており、専門職以外のアセスメント視点も不足しています。今後は標準化されたフォーマルなアセスメントツールの導入を進め、全職員が共通の指標を用いてこどもの適応状況を客観的に確認できる体制づくりが課題です。</p>
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<p>適切な支援の提供 16 放課後等デイサービス計画...その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 7件の回答</p> 	7	0	<p>ガイドラインを意識し、それぞれの内容に沿った具体的な支援を設定しています。学校での支援会議の内容を事業所内でも共有し、地域連携や家族支援の視点を取り入れた包括的なアプローチを実践しています。</p>	<p>学齢期以降は「預かり」が中心になりがちで、家庭での困りごとを深くヒアリングする機会が減少する傾向にあります。引き続き保護者との定期的な面談に加え、日常の送迎時等を活用して家庭と事業所が一体となった継続的な家族支援を展開することが課題です。</p>

17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<p>適切な支援の提供 17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 4件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>5</td><td>83.3%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>1</td><td>16.7%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	5	83.3%	いいえ	1	16.7%	5	1	<p>活動プログラムを決定する際は、事前に職員間で話し合いの場を持ち、チームで内容を検討しています。担当者だけでなく、他の職員からの相談や提案も積極的に取り入れ、多角的な視点から活動案を練り上げています。</p>	<p>事前検討は行っているものの、実際には一部の経験豊富な職員への依存度が高く、立案業務が属人化しています。今後は若手や経験の浅い職員も積極的にアイデアを出せるよう、企画の持ち回り制を導入するなど、チーム全体で立案スキルを底上げすることが課題です。</p>
回答	件数	割合													
はい	5	83.3%													
いいえ	1	16.7%													
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<p>適切な支援の提供 18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 7件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>6</td><td>85.7%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>1</td><td>14.3%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	6	85.7%	いいえ	1	14.3%	6	1	<p>利用頻度の高いこどもが飽きないよう、活動内容が被らない工夫をしています。運動課題では1ヶ月単位でアセスメントを行い、こどもの達成度に合わせて難易度を調整するなど、「できた」という達成感を積み重ねられるよう配慮しています。</p>	<p>見通しを持たせつつも、活動のバリエーションを少しずつ広げ、柔軟に対応できる適応力を育む支援のバランスが課題です。</p>
回答	件数	割合													
はい	6	85.7%													
いいえ	1	14.3%													
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<p>適切な支援の提供 19 こどもの状況に応じて、...サービス計画を作成し、支援が行われているか。 7件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>6</td><td>85.7%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>1</td><td>14.3%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	6	85.7%	いいえ	1	14.3%	6	1	<p>集団の中での協調性を育む時間と、個々の得意内容に偏りが生じています。集団が苦手なこどもに対しても、無理のない範囲で他者を意識できるような小グループで他者や、並行遊びを取り入れるなどの段階的な支援の工夫が課題です。</p>	<p>利用者の組み合わせや曜日によっては集団活動の実施が難しい日があり、活動内容に偏りが生じています。集団が苦手なこどもに対しても、無理のない範囲で他者を意識できるような小グループでの活動や、並行遊びを取り入れるなどの段階的な支援の工夫が課題です。</p>
回答	件数	割合													
はい	6	85.7%													
いいえ	1	14.3%													
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<p>適切な支援の提供 20 支援開始前には職員間で...確認し、チームで連携して支援を行っているか。 7件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>7</td><td>100%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	7	100%	いいえ	0	0%	7	0	<p>支援開始前には必ずミーティングの時間を確保し、その日のプログラム内容や職員の役割分担を明確に伝えています。疑問点があればすぐに確認できる雰囲気を作られており、チーム連携の基礎ができています。</p>	<p>ミーティングでは、情報伝達が一方通行になる事もあり、活発な意見交換のための工夫が必要です。職員同士がそれぞれ視点から気づきを共有し合えるような、より双方向的なコミュニケーションの場に改善することが課題です。</p>
回答	件数	割合													
はい	7	100%													
いいえ	0	0%													
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<p>適切な支援の提供 21 支援終了後には、職員間で...振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 6件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>3</td><td>50%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>3</td><td>50%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	3	50%	いいえ	3	50%	3	3	<p>勤務のすれ違いのタイミングでも「このような場合はどう対応すべきか」といった質問や相談が自主的に行われており、日々の疑問をそのままにせず解決しようとする姿勢が見られます。</p>	<p>勤務時間の都合で最後まで残れない職員が多く、全員が揃ってその日の振り返りを行う時間が十分に確保できていません。情報共有ノートを活用し、日々の気づきや課題を全職員が確実に共有できる工夫に努めます。</p>
回答	件数	割合													
はい	3	50%													
いいえ	3	50%													
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<p>適切な支援の提供 22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 7件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>5</td><td>71.4%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>2</td><td>28.6%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	5	71.4%	いいえ	2	28.6%	5	2	<p>医療的ケアが必要なこどもに関する記録も詳細に残されており、過去の状況との比較や現在の状態把握が容易に行えるため、安全かつ適切な支援に直結しています。</p>	<p>記録の目的を再確認し、誰が書いても客観的で次の支援に活かせる統一した記録フォーマットの作成と記述ルールの徹底に努めます。</p>
回答	件数	割合													
はい	5	71.4%													
いいえ	2	28.6%													
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<p>適切な支援の提供 23 定期的にモニタリングを...の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 6件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>5</td><td>83.3%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>1</td><td>16.7%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	5	83.3%	いいえ	1	16.7%	5	1	<p>定期的なモニタリングを実施し、専門職の意見も交えながら、こどもの変化に応じた支援計画の見直しやアプローチ方法の変更を検討するプロセスが機能しています。</p>	<p>モニタリング結果をもとに具体的な支援の改善策を全員で協議できるような体制に努めます。</p>
回答	件数	割合													
はい	5	83.3%													
いいえ	1	16.7%													
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	<p>適切な支援の提供 24 放課後等デイサービスが...基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。 6件の回答</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>件数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>6</td><td>100%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>0</td><td>0%</td></tr> </table>	回答	件数	割合	はい	6	100%	いいえ	0	0%	6	0	<p>夏休みなどの長期休暇を活用し、外部施設の利用や他事業所との交流機会を設けています。また、学校から電車や徒歩で事業所へ向かう帰宅支援の練習を実施するなど、自立に向けた多様な経験が積めるよう工夫しています。</p>	<p>4つの基本活動をバランス良く組み込んだ多様なプログラムを継続的に企画・実施するよう努めます。</p>
回答	件数	割合													
はい	6	100%													
いいえ	0	0%													

関係機関や保護者との連携	25	<p>子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。</p>	<p>適切な支援の提供 25 子どもが自己選択できる。決定する力を育てるための支援を行っているか。 7件の回答</p>	7	0	<p>余暇時にはおもちゃをカードで選べるようにしたり、活動後のスケジュールを子ども自身が立てたりと、視覚支援を活用しながら自己選択・自己決定を促す環境を整え、子どもの「やりたい」気持ちを尊重しています。</p>	<p>自己選択できる機会の保障と、選択しなくなるような心揺さぶられる活動の保障にこれからも努めます。</p>
	26	<p>障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。</p>	<p>関係機関や保護者との連携 26 障害児相談支援。子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。 6件の回答</p>	6	0	<p>相談支援事業所が主催するサービス担当者会議等において、担当者が学校や他施設の間でしっかりと情報共有を行い、子どもを取り巻く関係機関全体での連携を図っています。</p>	<p>日々の細やかな様子や変化を会議の場に直接届けられるよう、現場の主力職員が会議に出席、参画できるような人員調整の工夫に引き続き努めてまいります。</p>
	27	<p>地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。</p>	<p>関係機関や保護者との連携 27 地域の保健、医・係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 5件の回答</p>	5	0	<p>日々の送迎時を利用して、学校の先生や保護者と子どもの様子についてこまめな情報交換を行っています。また、会議の前後等に他事業所とも情報共有を回り、連携の土台作りを努めています。</p>	<p>迎時の立ち話的な情報交換にとどまらず、地域の保健・医療機関や教育機関などと、より組織的で強固な連携体制を構築する必要があります。いざという時に迅速に連携できるよう、平時から関係機関の担当者との定期的な情報共有の場を設けるなどの体制強化が課題です。</p>
	28	<p>学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。</p>	<p>関係機関や保護者との連携 28 学校との情報共有、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 7件の回答</p>	7	0	<p>送迎時に情緒が不安定な子どもがいる際には、学校側へ速やかに状況を伝え、協力を仰ぐなど、子どもの安全と安心を第一に考えた臨機応変な連携と対応が行われています。</p>	<p>新しく入職した職員や担当外の職員にとって、各学校ごとのルールや、普段関わりの少ない子どもの特性を把握するのが難しい状況があります。事前の顔写真入りプロフィールの共有や、学校ごとの申し送り事項をまとめたマニュアルの整備など、情報共有の仕組みの改善が課題です。</p>
	29	<p>就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。</p>	<p>関係機関や保護者との連携 29 就学前に利用し、所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 6件の回答</p>	4	2	<p>同一法人内の施設から移行してくる子どもに関しては、利用開始前しっかりと引き継ぎの時間を確保し、事前の情報共有と相互理解を深めることで、スムーズな受け入れに繋がっています。</p>	<p>法人外の新規利用者の場合、過去に在籍していた保育所や児童発達支援事業所からの情報収集が十分に行えていないケースがあります。今後は、外部の就学前施設とも積極的に連携を図り、子どもの生育歴やこれまでの支援内容を的確に把握するための仕組みづくりが課題です。</p>
	30	<p>学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。</p>	<p>関係機関や保護者との連携 30 学校を卒業し、...までの支援内容等の情報を提供する等しているか。 5件の回答</p>	4	1	<p>学校卒業に伴い、放課後等デイサービスから次の障害福祉サービス事業所等へ移行する際には、必ず移行支援会議を実施し、これまでの支援内容や子どもの特性について丁寧な情報提供を行っています。</p>	<p>就労への引き継ぎは、呼ばれる会議と叫ばれない会議があるため、今後引き継ぎの大切さを保護者様や各関係機関に伝えていきます。</p>
	31	<p>地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。</p>	<p>関係機関や保護者との連携 31 地域の児童発達支援サービスや助言や研修を受ける機会を設けているか。 5件の回答</p>	3	2	<p>センターであるため、より専門的な見地からの助言や支援技術の向上に向けた連携が取りやすく相談しやすい。</p>	<p>地域とのつながりを平時より密にしていきたいと考えています。</p>
	32	<p>放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。</p>	<p>関係機関や保護者との連携 32 放課後児童クラブ、交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。 5件の回答</p>	1	4	<p>事業所の中だけのコミュニティに留まらず、子どもたちが多様な価値観に触れ、社会性を育てるためには、地域社会や地域の他の子どもたちとの交流機会が不可欠であるという問題意識を職員間で共有しています。</p>	<p>現状では、放課後児童クラブや児童館など、地域の子どもたちと直接的に関わる機会を設けることができていません。今後は関係機関と積極的に協議し、合同イベントの開催や施設の相互利用など、無理なく自然な形で地域交流を図るための具体的な企画立案が課題です。</p>

33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	<p>関係機関や保護者との連携 33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。 4件の回答</p> <p>はい 2 (200%) いいえ 2 (200%)</p>	2	2	<p>地域の自立支援協議会等に参加して得られた最新の情報や地域の課題について、報告書として分かりやすくまとめ、日々の支援や事業所の運営に活かせるよう工夫しています。</p> <p>協議会等の存在や報告内容について、一部の職員の認識に留まっており、事業所全体への情報浸透が不十分です。今後は、会議で得た有益な情報をミーティング等で定期的に発表する時間を設け、全職員が地域課題を共有し支援に反映させる意識の向上が課題です。</p>
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	<p>関係機関や保護者との連携 34 日頃からこども...達の状況や課題について共通理解を持っているか。 7件の回答</p> <p>はい 6 (85.7%) いいえ 1 (14.3%)</p>	6	1	<p>日々のお迎えの際や面談時に、家庭での様子を丁寧にヒアリングし、事業所での活動の様子も誇張せずありのままをフラットに伝えることで、誠実な情報共有と信頼関係の構築に努めています。</p> <p>まだ保護者との信頼関係が十分に構築しきれていないと感じる職員もおり、コミュニケーションの質にばらつきがあります。今後は全職員が保護者と適切な距離感で関わり、こどもの発達課題について深い共通理解を持てるよう、面談スキルの向上や声掛けの工夫が課題です。</p>
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<p>関係機関や保護者との連携 35 家族の対応力の向...できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 5件の回答</p> <p>はい 5 (100%) いいえ 0 (0%)</p>	5	0	<p>家族の対応力向上を目的としたペアレント・トレーニング等の研修やイベントについて、ホームページや案内チラシを配布しています。</p> <p>日常の会話の中で口頭でも直接参加を勧めるなどの工夫に努めます。</p>
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<p>保護者への説明等 36 運営規程、支援プログラ...利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 5件の回答</p> <p>はい 4 (80%) いいえ 1 (20%)</p>	4	1	<p>児童発達支援管理責任者との事前面談や定期的な面談の機会を活用し、事業所の運営規程や提供する支援プログラムの内容、利用者負担等について、保護者に直接丁寧な説明を行っています。</p> <p>児童発達支援管理責任者との事前面談や定期的な面談の機会を活用し、事業所の運営規程や提供する支援プログラムの内容、利用者負担等について、保護者に直接丁寧な説明を行っています。</p>
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<p>保護者への説明等 37 放課後等デイサービス...こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 4件の回答</p> <p>はい 4 (100%) いいえ 0 (0%)</p>	4	0	<p>計画作成の際だけでなく、こどもの最善の利益を優先するため、保護者の意向や要望をしっかりと汲み取れるよう、日常的なコミュニケーションを通じて話しやすい関係性の構築に努めています。</p> <p>こどもの潜在的な移行もくみ取りながら、保護者からの相談を積極的に確認するよう努めます。</p>
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<p>保護者への説明等 38 「放課後等デイサービス計...放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 5件の回答</p> <p>はい 5 (100%) いいえ 0 (0%)</p>	5	0	<p>放課後等デイサービス計画を作成した際は、保護者にサインをいただく前に、どのような意図で具体的にどう関わっていくのかを丁寧に説明し、十分に納得と了承を得た上で支援をスタートしています。</p>
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<p>保護者への説明等 39 家族等からの子育ての悩...に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 5件の回答</p> <p>はい 4 (80%) いいえ 1 (20%)</p>	4	1	<p>保護者からの子育てに関する悩みや相談に対して、真摯に耳を傾ける姿勢を持っています。専門職による面談の機会を活用し、こどもの特性に応じた必要な助言や支援を提供しています。</p> <p>日常のちょっとした悩みや出来事を気軽に話せる雰囲気や働き方を心掛けて、送迎時等に職員から積極的に声掛けを行い、保護者が孤立感を感じないような、より身近でアクセスしやすい相談体制の構築に努めます。</p>
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	<p>保護者への説明等 40 父母の会の活動を支援す...士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 5件の回答</p> <p>はい 2 (40%) いいえ 3 (60%)</p>	2	3	<p>児童発達支援の段階から利用している保護者間では自然な交流が生まれており、情報交換の場として機能しています。事業所としても、そうした保護者同士の横の繋がりを大切に見守っています。</p> <p>放課後等デイサービスから新たに利用を開始した保護者は交流の輪に入りにくく、家庭での困り感を共有する機会が不足しています。事業所が主体となって保護者会やテーマ別の座談会を定期的に開催し、年齢期特有の悩みを共有できる交流の場を意図的に設けることが課題です。</p>

の 説 明 等					
	41 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	保護者への説明等 41 7件の回答 	7	0	保護者からの要望や「こうしてほしい」という意見を真摯に受け止め、迅速に対応する体制が整っています。支援の見直しが必要な場合には早急に話し合いの場を持ち、今後の対応について保護者に説明しています。
	42 定期的に通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	保護者への説明等 42 5件の回答 	4	1	連絡アプリを導入し、翌月のお知らせの配信や利用予約の取りまとめを行うなど、ペーパーレスかつ迅速な情報提供に努めています。保護者が事業所からの連絡をスマートフォン等で容易に確認できる環境を整えています。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	保護者への説明等 43 7件の回答 	7	0	個人情報の外部への流出を防ぐためのルールを徹底しています。事業所内で写真を掲示したり、外部へ活動報告を行う際には、子どもの顔が特定されないよう配慮するなど、慎重な取り扱いを行っています。
	44 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	保護者への説明等 44 5件の回答 	4	1	子どもの特性に合わせた関わり方を工夫するとともに、保護者に対しても、事業所で行っている支援の工夫を「ご家庭でも使える方法」として分かりやすく伝えるなど、相互のコミュニケーションに努めています。
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を回っているか。	保護者への説明等 45 4件の回答 	2	2	事業所の存在を地域に知ってもらい、子どもたちが地域社会の中で温かく見守られる環境を作るためには、地域住民との交流や地域に開かれた事業運営が必要不可欠であるという認識を持っています。 現状では、事業所の行事に地域住民を招待するなどの具体的な交流活動は実施できていません。実習生や見学者は年間を通して沢山の方々に知っていただいています。今後は地域の行事への参加や交流を工夫していきます。
	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	非常時等の対応 46 7件の回答 	7	0	・個々のマニュアルがある。 ・児童発達と合同で行う時と放デイのみで行う時とで状況を整理して行うことが必要 ・定期的に訓練を行っている
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	非常時等の対応 47 7件の回答 	7	0	BCP（業務継続計画）の策定や具体的な運用について、全職員への周知と理解が十分に行き届いていません。今後は大規模災害発生時の連絡網の確認や、ライフラインが停止した状況下での事業継続の手順など、BCPの内容を全職員で共有し、実効性を高めるための研修が課題です。
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	非常時等の対応 48 7件の回答 	6	1	個別ファイルでの情報管理は行われていますが、緊急時にその情報を迅速に持ち出し、確認できるような「持ち出し用のサマリー」等の準備が不足しています。今後は災害時や外出時の緊急事態に備え、子どもの重要情報を一目で把握でき、すぐ持ち運べるような情報管理ツールの整備が課題です。

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	非常時等の対応 49 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 6件の回答		6	0	アレルギーのある子どもに関する情報をファイル等で明確にし、調理活動などで食材を購入・使用する際には必ず成分表を確認するなど、誤食を防ぐための細心の注意を払った対応を行っています。	アレルギー対応の意識は高いものの、医師の指示書等に基づく正確な病状や、緊急対応手順についての職員間の共有を繰り返し行う事と、今後はアレルギーに関する記録を一元化する工夫を行います。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	非常時等の対応 50 安全計画を作成し、安全管理、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 6件の回答		6	0	おむつ交換や移乗の際など、事故が起きやすい場面では必ず職員同士で声を掛け合い、複数名で安全を確認しながら対応するなど、日常的な安全管理の意識が高く保たれています。	今後は安全計画の内容をわかりやすく周知し、全職員が同じ安全基準を持って支援にあたるような体系的な研修の実施が課題です。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	非常時等の対応 51 子どもの安全確保に関して、よく取組内容について、家族等へ周知しているか。 6件の回答		6	0	過去に発生したインシデント（ヒヤリハット事案等）については職員間で振り返りを行い、改善点を導き出すなど、安全に関する事後検証と情報共有の取り組みを実施しています。	今後は保護者会や通信等を通じて、事業所の安全に対する取り組みを定期的に発信し、家庭との連携を図りながら安全確保を進めることが課題です。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	非常時等の対応 52 ヒヤリハットを事業所内で、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 7件の回答		7	0	ヒヤリハット事例や事故報告をアンケートや報告書として確実に提出し、ミーティングで情報共有する仕組みが整っています。法人内の他園とも事例を共有し、組織全体での対応策の検討と再発防止に繋がっています。	事例の報告と共有のシステムは機能していますが、集まったヒヤリハット情報を分析し、環境改善や業務フローの抜本的な見直しにまで活かされていないのが現状です。今後は共有された事例を蓄積・分析し、「なぜ起きたのか」を深掘りして、より具体的な予防策を構築していくことが課題です。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	非常時等の対応 53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 7件の回答		7	0	虐待に関する最新の知識をアップデートするため、積極的に研修を受講し、職員の意識向上に努めています。また、定期的にごどもへの聞き取り調査を行うなど、虐待の早期発見と未然防止に向けた取り組みを実施しています。	日々の支援を互いに振り返り、客観的な視点でチェックし合えるような、オープンで風通しの良い組織文化の構築に努めます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、ごどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	非常時等の対応 54 どのような場合にやむを得ず、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 4件の回答		4	0	身体拘束に関する基本的な認識は持ち合わせており、いかなる場合もごどもの人権を尊重し、やむを得ないケースの対応について組織的に検討する必要があるという問題意識を共有しています。		